

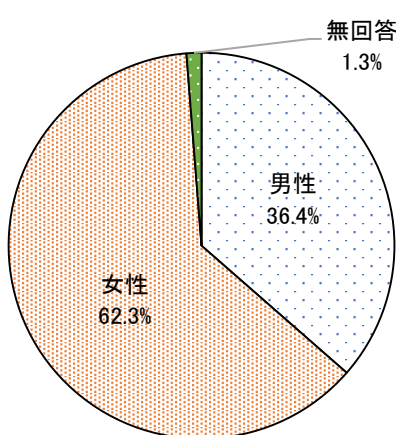
「北九州市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」の結果報告

【調査の概要】

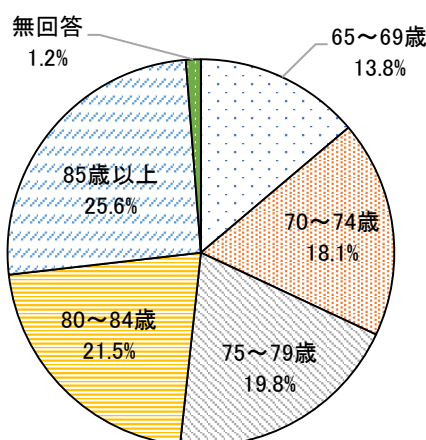
- (1) 調査目的 要介護状態になる前の高齢者について、要介護状態になる各種リスクの発生状況や、各種リスクに影響を与える日常生活の状況などを把握し、地域の抱える課題を特定することを目的とする。
- (2) 調査対象 令和元年9月1日時点で市内在住の65歳以上の一般高齢者及び要支援者。
- (3) 調査方法 郵送による配布・回収（無記名）
- (4) 調査期間 令和2年1月10日（金）～令和2年1月31日（金）
- (5) 調査項目 厚生労働省が示す調査項目を使用し、生活支援の充実、高齢者の社会参加・支え合い体制づくり、介護予防の推進等のために必要な社会資源の把握に資する項目35問を設定。
- (6) 日常生活圏域 住民が日常生活を営んでいる地域として、地理的条件や人口、交通事情、その他既存施設やサービスの整備状況を踏まえ設定されている区域であり、本市においては、地域包括支援センターが設置されている24か所に圏域を設定。
- (7) 調査結果 配布票数 2,000 回収票数 1,361 回収率 68.1%
- （ 一般高齢者：配布票数 1,000 回収票数 662 回収率 66.2%
要支援者：配布票数 1,000 回収票数 699 回収率 69.9% ）

【回答者の属性】 ※全体 1,361 名

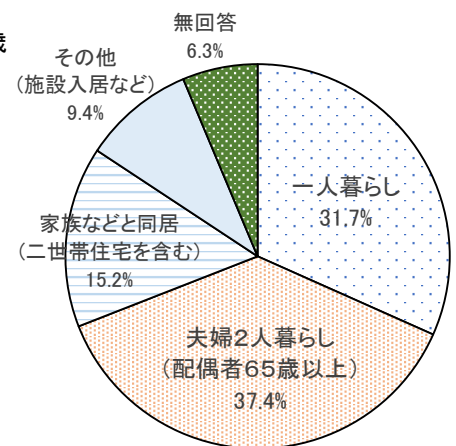
(1) 性別



(2) 年齢



(3) 家族構成

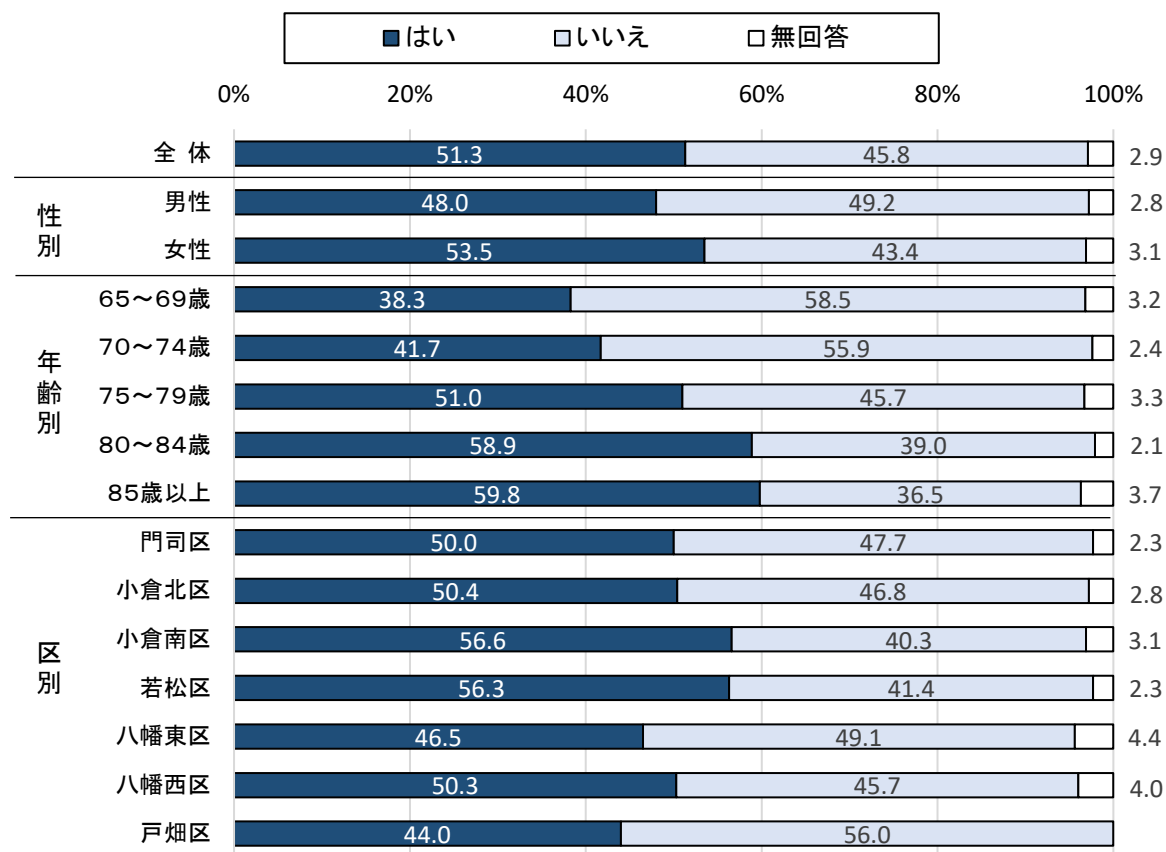


【評価項目別の結果】

1 生活機能

(1) 物忘れが多いと感じるか

物忘れが多いと感じるか尋ねたところ、「はい」と回答した割合は、市全体で 51.3% となっている。男女別にみると、男性が 48.0%、女性が 53.5% となっており、女性の方が 5.5 ポイント高い。年齢別にみると、年齢層が高くなるにつれて「はい」と回答した割合が高くなっている。

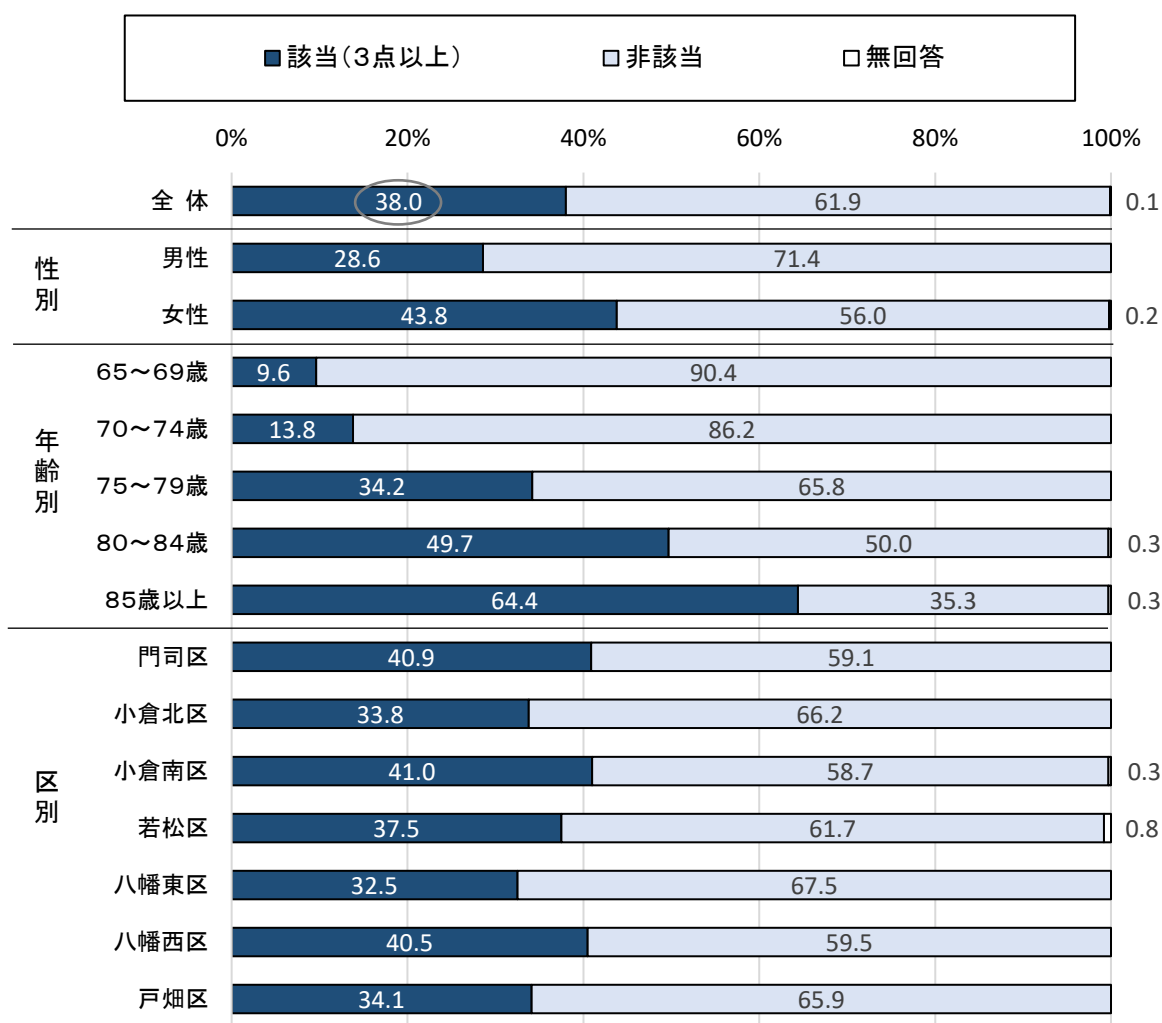


【H29】「はい」と回答した割合
 市全体 49.7%
 男性 46.2%
 女性 51.5%

(2) 運動器機能の低下

「階段を手すりや壁をつたわず昇っているか」「椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているか」「15分位続けて歩いているか」「過去1年間に転んだ経験があるか」「転倒に対する不安は大きいか」の5つの設問のうち、これらの動作ができない、転倒の経験がある等の回答が3つ以上ある場合は、運動器機能の低下を把握することができ、市全体で38.0%となっている。

男女別にみると、男性が28.6%、女性が43.8%となっており、女性の方が15.2ポイント高い。年齢別にみると、年齢層が高くなるにつれてその割合が顕著になっている。



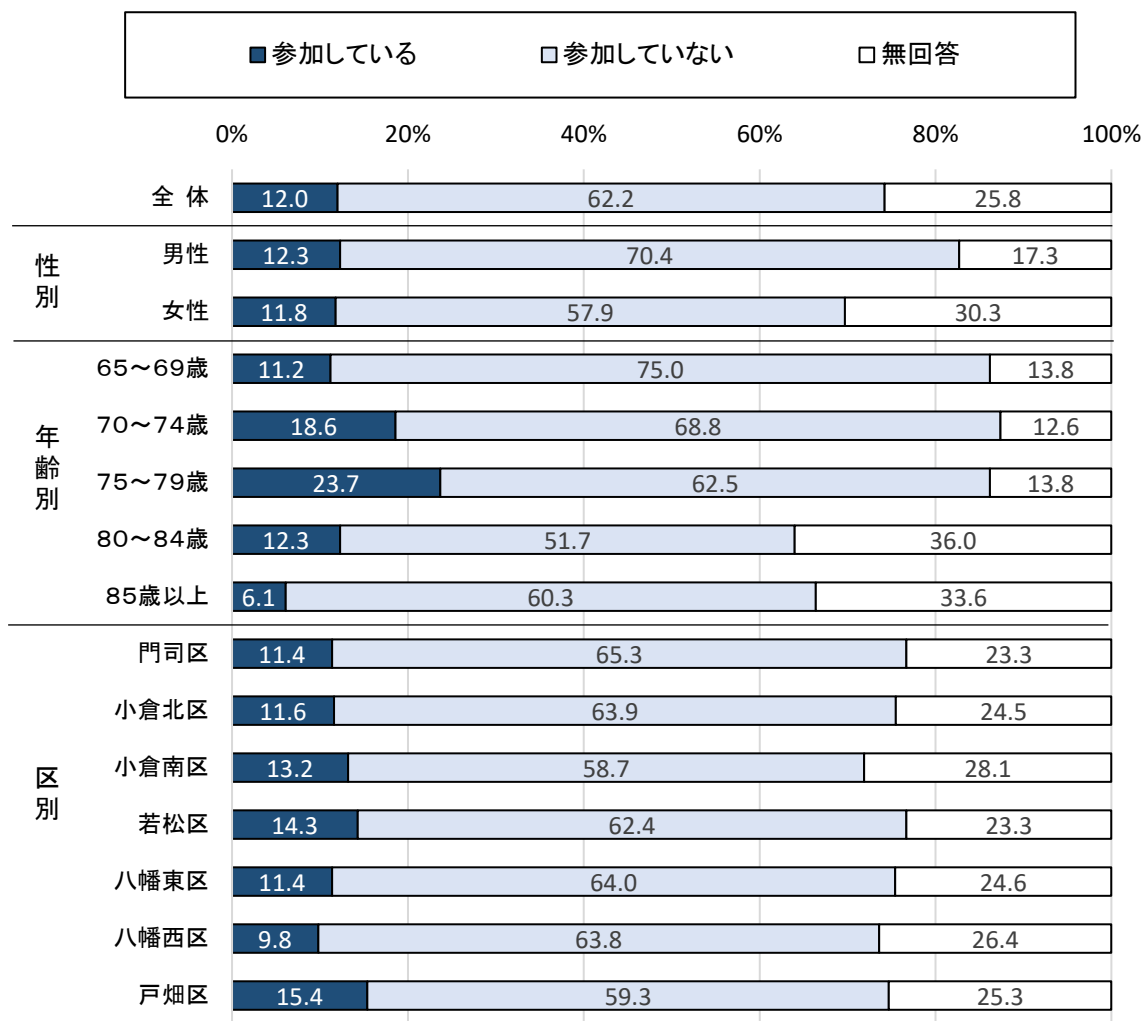
【H29】 該当（3点以上）の割合
 市全体 35.4%
 男性 25.5%
 女性 40.4%

2 日常生活

(1) ボランティアのグループへの参加

ボランティアのグループに参加しているか尋ねたところ、市全体で「参加している」の割合は12.0%、「参加していない」の割合は62.2%となっている。

男女別にみると、「参加している」の割合は男性が12.3%、女性が11.8%となっており、ほぼ同じ割合となっている。



【H29】「参加している」の割合

市全体 7.0%

男性 8.3%

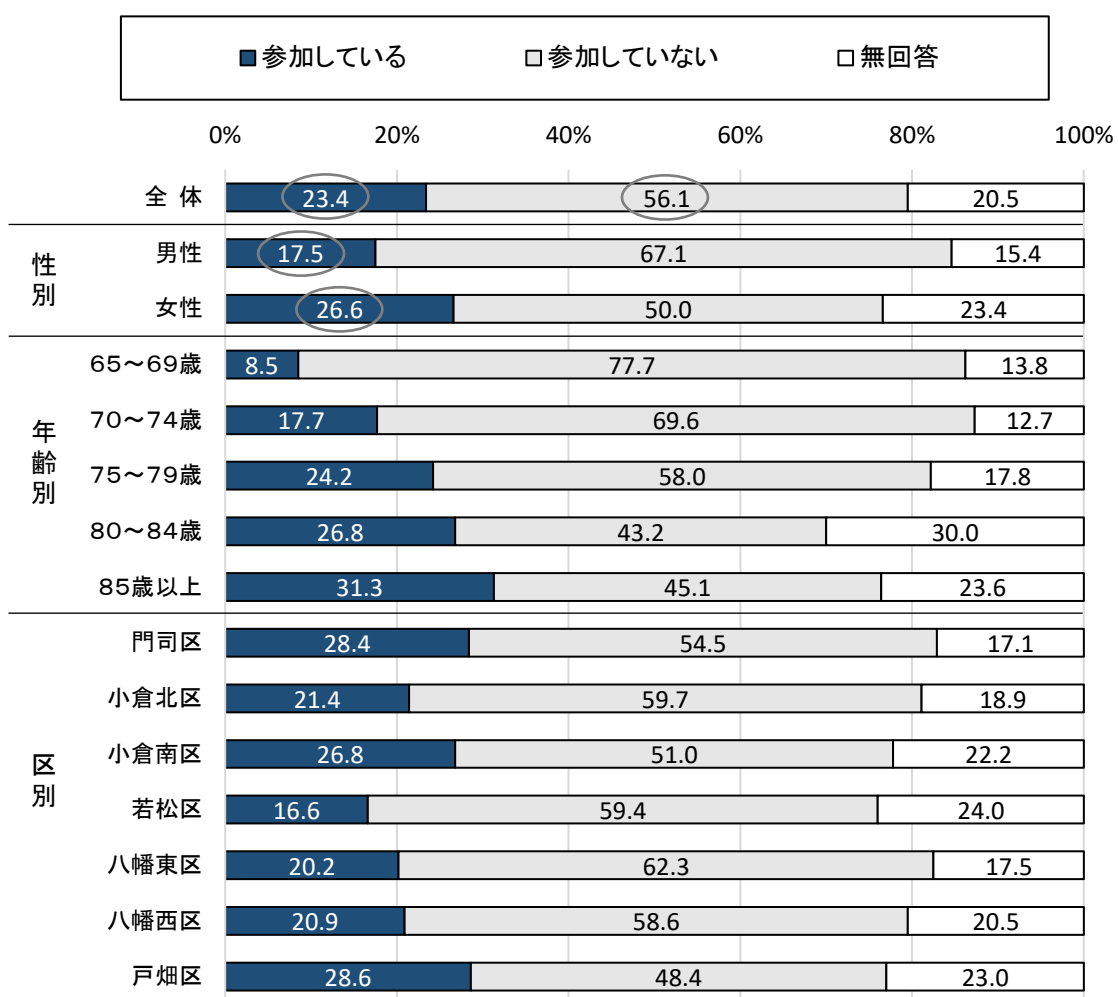
女性 6.4%

(2) 通いの場への参加

介護予防のための通いの場に参加しているか尋ねたところ、市全体で「参加している」の割合は23.4%、「参加していない」の割合は56.1%となっている。

男女別にみると、「参加している」の割合は男性が17.5%、女性が26.6%となっており、女性の方が9.1ポイント高い。

※介護予防のための通いの場：社会福祉協議会などが行っている高齢者サロン、いきがい活動ステーション、高齢者地域交流支援通所事業、きたきゅう体操、ひまわり太極拳、公園で健康づくり、筋力向上トレーニング教室、ケア・トランポリン教室、ふれあい昼食交流会など

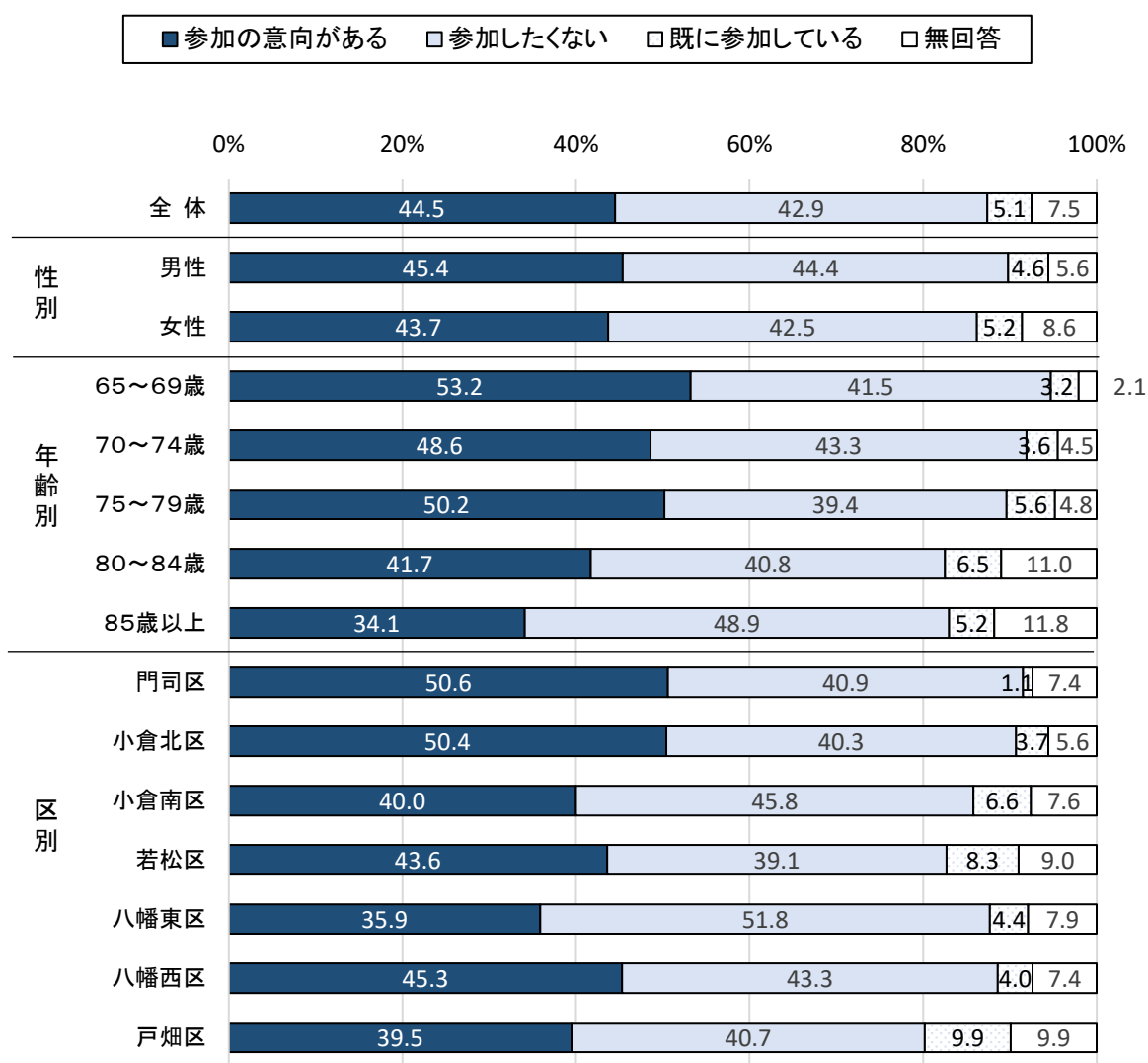


今回の新規項目

(3) 地域活動への参加

地域住民による健康づくり活動や趣味等のグループ活動に参加してみたいかを尋ねたところ、市全体で「参加の意向がある」の割合が44.5%、「参加したくない」の割合は42.9%となっており、男女別にみてもおおむね同じ割合となっている。

年齢別にみると、年齢層が高くなるにつれて「参加の意向がある」の割合が低下傾向にある。

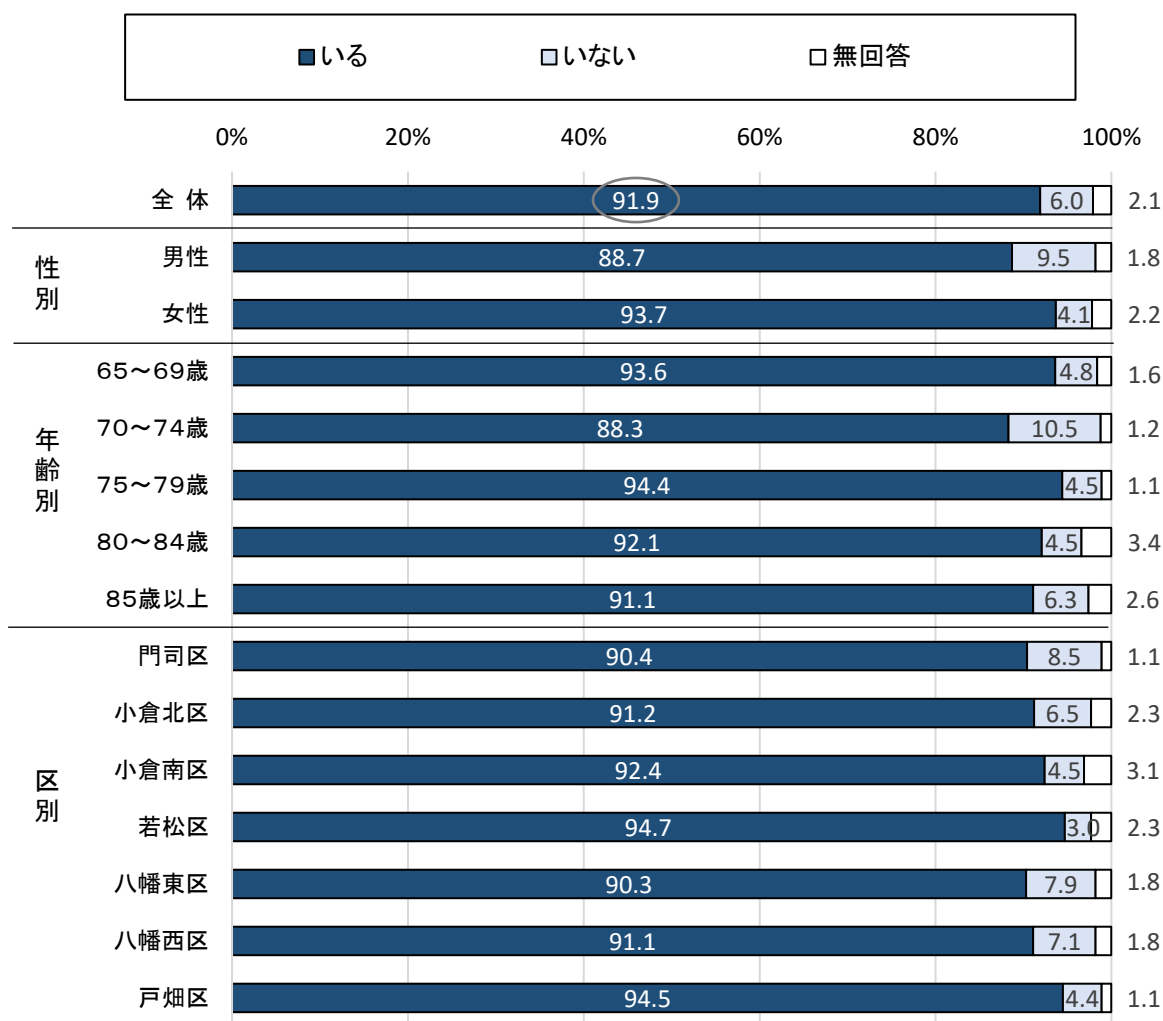


【H29】「参加の意向がある」の割合
 市全体 38.5%
 男性 42.1%
 女性 36.6%

(4) 心配事や愚痴を聞いてくれる人がいるか

配偶者や近隣の方等、心配事や愚痴を聞いてくれる人がいるかどうか尋ねたところ、「いる」と回答した割合は、市全体で91.9%となっている。

男女別にみると、男性が88.7%、女性が93.7%となっており、女性の方が5.0ポイント高い。年齢別にみると、年齢層ごとの割合は大きくは異ならず、おおむね市全体と同様の割合となっている。

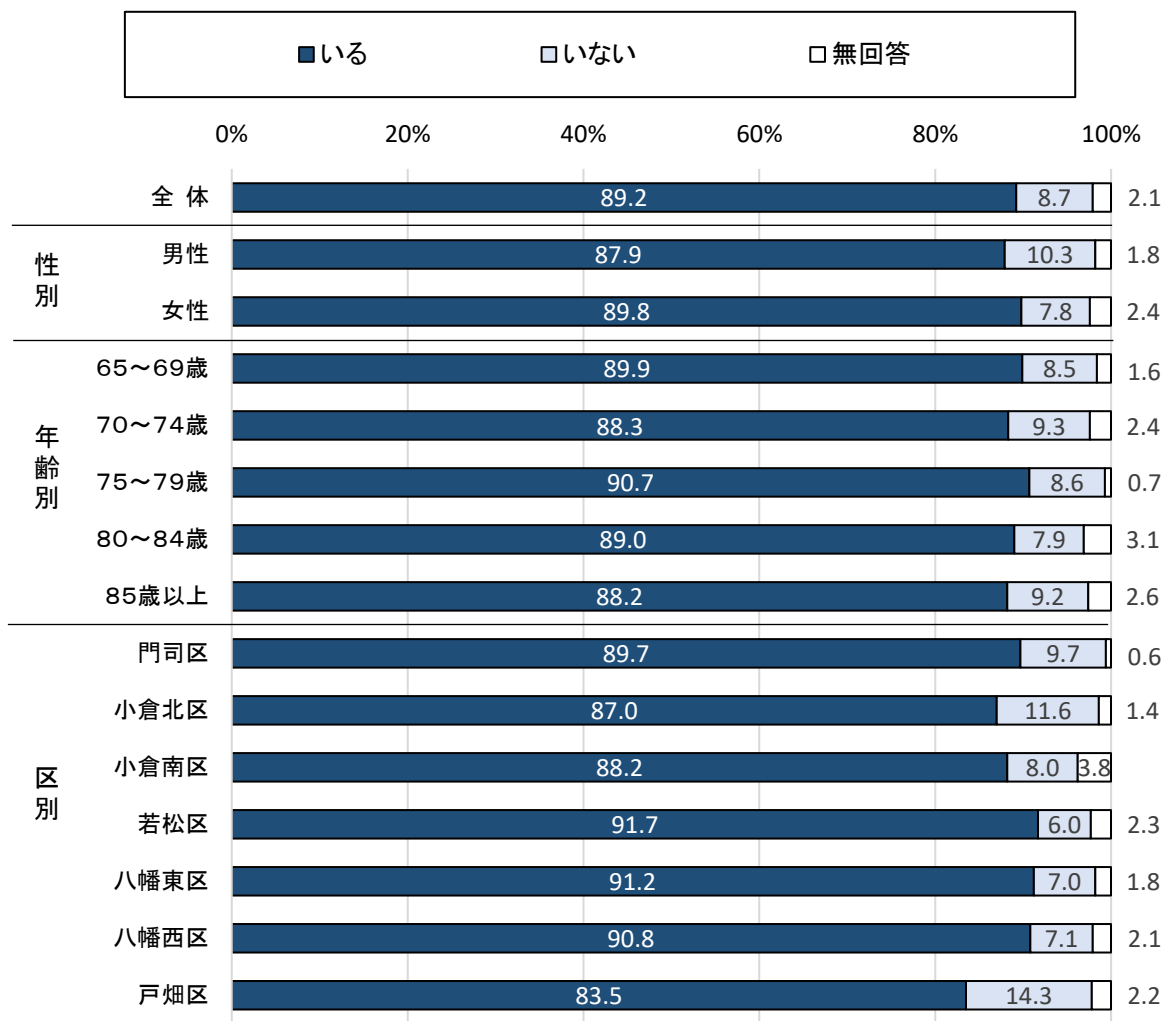


【H29】「いる」と回答した割合
 市全体 94.3%
 男性 92.2%
 女性 95.3%

(5) 病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人がいるか

配偶者や同居の方等、病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人がいるかどうかを尋ねたところ、「いる」と回答した割合は、市全体で89.2%となっている。

男女別、年齢別でも、おおむね市全体と同様の割合となっている。



【H29】「いる」と回答した割合

市全体 91.1%

男性 91.7%

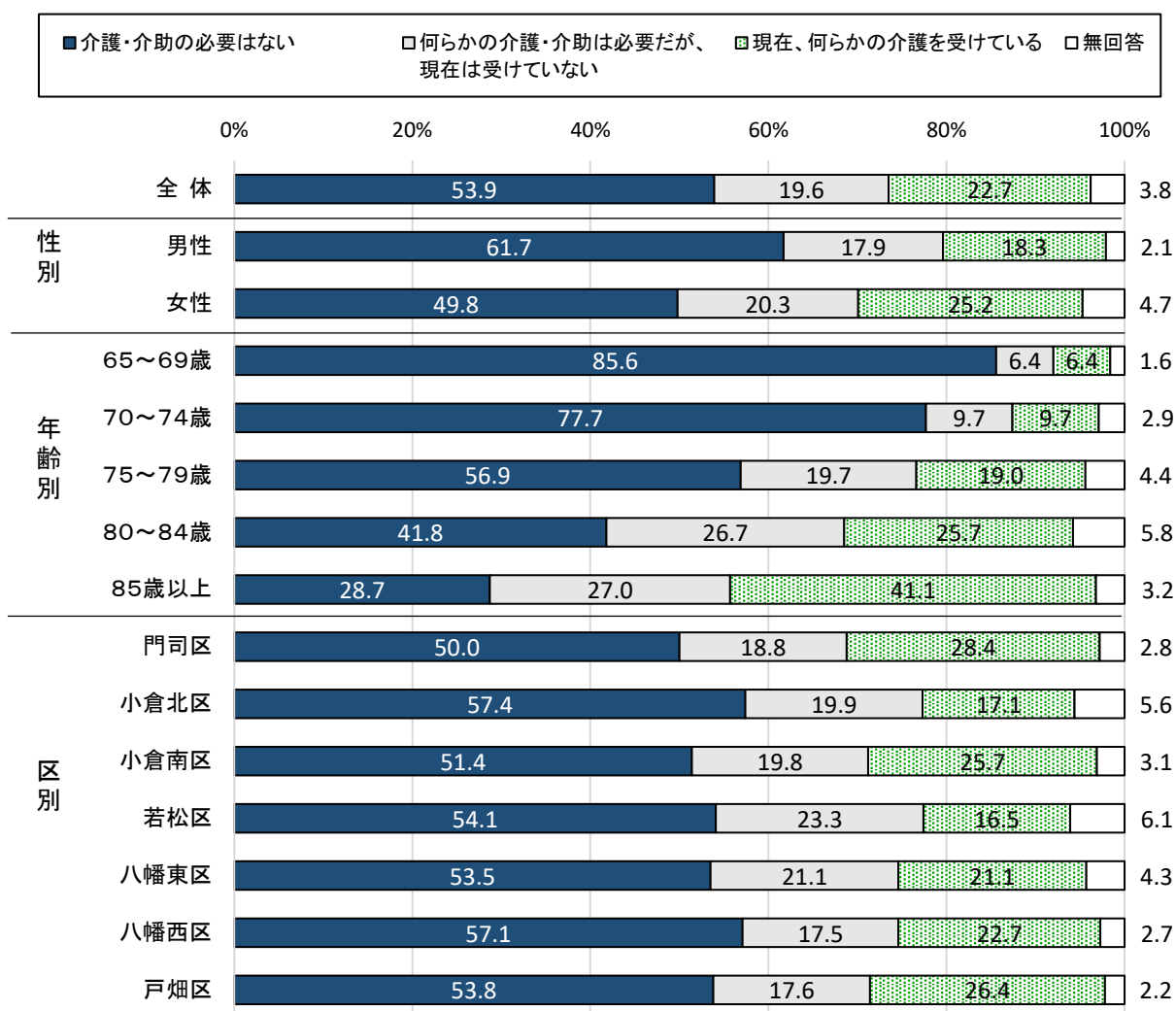
女性 90.7%

3 介護

(1) 普段の生活で誰かの介護・介助が必要か

介護・介助の状況については、「介護・介助は必要ない」の割合が 53.9%で最も高い。「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」は 19.6%、「現在、何らかの介護を受けている（家族などの介護）」22.7%となっている。

「介護・介助は必要ない」の割合を男女別にみると、男性が 61.7%、女性が 49.8%となっており、男性の方が 11.9 ポイント高い。年齢別にみると、年齢層が上がるにしたがって割合が低くなっている。



【H29】「介護・介助は必要ない」の割合

市全体	54.9%
男性	61.0%
女性	51.8%

【まとめ】

- ・回答者の家族構成は、全体では「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が37.4%で最も多く、次いで「1人暮らし」の31.7%、「家族などと同居」が15.2%などが続いている。年齢階層別にみると、年齢が高くなるほど「1人暮らし」が多くなる傾向がみられる。
- ・認知機能の低下を問う設問「物忘れが多いか」については、51.3%が「はい」と回答している。認知機能の低下が疑われる高齢者が多いと考えられるため、引き続き予防するための取組みが必要である。
- ・趣味関係、スポーツ関係、町内会・自治会等、会やグループへの参加状況を見ると、どのグループにおいても「参加している」は男女ともに3割未満である。趣味やスポーツ、住民が運営する社会活動等を充実させるための取組みを検討する必要がある。